



発達障害を持つ人々に対する支援、 およびその効果に関する研究

保健福祉学部 作業療法学科
教授 土田 玲子 (つちだ れいこ)



連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2512号室
Tel 0848-60-1234 Fax 0948-60-1226
E-mail tutida@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 作業療法、特別支援教育、発達障害、感覚統合理論
キーワード： 作業療法、特別支援教育、発達障害、感覚統合理論

● 現在の研究について

近年発達障害を持つ幼児や児童に対する療育、教育のニーズが急増していますが、支援を担う専門家が少ないのが現状です。作業療法理論の1つである感覚統合理論は、専門領域のみならず広く保育や教育、子育ての理論として利用できるものです。この考え方を生かした療育モデルは、子どもに対する直接的支援、保護者支援、そして教育、療育機関との連携、啓発の3つの軸で構成されます。

○発達障害児に対する療育方法とその効果に関する研究

そこで、子どもに対する直接的支援として、作業療法士によって主として感覚統合理論の原則を用いながら行われる介入や、専門性を生かした療育に関する研究を行っています。

○発達障害児に対する特別支援教育の方法、およびシステム作りに関する研究

またこのような考え方を、子どもたちが生活する日常の場面で生かせるよう、巡回相談や学習会、講演会、研修会、公開講座等の活動を行っています。このような活動を通して、保育や教育に携わる専門家と連携できるシステム作りやその成果に関する研究も行っています。

○作業療法士による保護者支援の方法およびその効果に関する研究

子どもにとってキーパーソンとなる保護者に対する支援は、直接的支援と同様、あるいはそれ以上に重要な意味を持ちます。子育ての悩みを保護者同士で話し合い、支え合う活動として、親の会活動の支援やピアカウンセリング、ペアレントトレーニング等を実践し、その成果に関する研究を行っています。

● 地域・社会と連携して継続していきたい研究

既に江田島市や庄原市、尾道市等の関連機関と連携して子育て支援活動を行っています。

また、被災地支援にもこの考え方を生かし、伊達市を拠点として子どもの発達支援活動も行っています。これからも、地域の子育て支援システムの構築に寄与できる活動を継続していきたいと考えています。



また、地域の企業と連携して学校で使用できる子ども支援グッズの開発も始めています。

● これまでの連携実績

平成17年より、毎年「ちょっと気になる子の理解と支援」というメインテーマでシティーカーレッジを年5~6回開催しています。

また、「保育園・幼稚園・学校で使える感覚運動活動」、「発達障害の支援に繋がる知能検査の解釈」等の公開講座を毎年開催しています。